曽爾小学校における「糸車の体験実習」のご報告

前回以降、吉野学園「綿プロジェクト」の続報を、ご報告する事ができず、この場を借りてお詫び申し上げます。

昨年の 8 月に、自閉症 e サービスにおける公開講座にて「綿」を使った取り組みの報告を皮切りに、11 月には、奈良県障害者芸術祭における現代アートのイベント「木造校舎現代美術館 WASM」内にて、糸紡ぎのワークショップを開催、3 月には曽爾小学校において 1、2 年生 13 名を対象とした「糸車の体験学習」を開催致しました。

その他にも「綿」関連において、色々とご助言やサポートをして頂いている、奈良の奥大和におられるデザイナーの坂本大祐氏より、我々Cozy cotton club のロゴデザインをして頂く等、慌ただしくも、充実した一年を過ごして参りました。

本当は、全てを掻い摘んで、ご報告したいのですが、その中でも、今回は、曽爾小学校での「糸車の体験実習」について、どうしてもご報告したく思い、発信させて頂いた次第です。

曽爾小学校から講演依頼が舞い込んだ経緯として、11 月の「木造校舎現代美術館 WASM」イベント内にて開催した、糸紡ぎワークショップへご参加下さった方の中に、曽爾小学校の教諭の方がおられ、しばらく経ってから学園に連絡があり、小学校の国語科の授業の中に「たぬきの糸車」という昔話を題材とした授業があり、物語の中で糸紡ぎを仕事とし、たぬきを罠から逃がしてあげた心優しいおかみさんに、いたずら好きで糸紡ぎのマネをする愛嬌のあるたぬきが、糸車を使って一年分の糸を紡ぎ糸車を綺麗にして恩返しするという場面が描かれています。その中で糸車を使って糸を紡ぐ不思議な場面を、ぜひ子供達にも見せてあげたいので、講演を願えないか…というお話でした。

講演を引き受けたものの、子供達の前で、実際に綿花からどのようにして糸になるのか、その不思議な魅力をどんな形で講演に触れる子供達が表現してくれるのか…期待と不安が交錯する中で、多少の不安を感じつつ、吉野学園の担当スタッフ同士で連日の打ち合わせを重ね、当日を迎えました。

そんな我々の不安を打ち消すかの如く、子供達の不思議そうな眼差しと、楽しそうな笑顔に包まれ、充実した 2 時間を提供する事ができました。

改めてご協力頂いた曽爾小学校の先生方には感謝申し上げます。

この度の講演を踏まえ、こうした形における障害者支援施設としての地域貢献のあり方も 1 つのモデルとなり得るのではないか…その様な想いに触れた次第です。

又、この記事をお読み頂いた方の中で、もし「糸車の体験実習」をご希望される様でしたら、一度、吉野学園までご連絡頂ければ、できる限りご検討させて頂きたいと思いますので、ご連絡お待ち致しております。

※別途、動画がございます。動画のページよりご覧ください。

曽爾小学校における「糸車の体験実習」のご報告

☆曽爾小学校の子ども達と職員の様子☆